



国立国会図書館 恋若竹 3編 208-703



ガラス使用



恋若竹 二編 中

208  
9  
703





深契  
情話

戀の若竹後編卷之中

江戸

十返舎一九作

第九套

在斯於若と竹次郎ハ積もくく爲中由婢女  
 おもひの働らあそ初小逢ふ瀬の足果ぬ夢ふたふ  
 嵐の邪魔の入り成大かさるる怪と留と居る  
 障子の外あて「マント」歩猫うけ且ふ二人のあつと  
 吐息して「ア猫が安心さ。大なるびつろくして。跟蹤さ

恋若竹後編

一





うらが大いしひのいかにめんまきまらてひひまうー。この  
 いゆえにまびらうきよのま着あつかえんひもあつてを。  
 勿論は方へのきよ度百よ百あるひでひるく。まこ来  
 るひ書のまぐごごのまをから業ドのまきせんれど。今  
 のまうふ。あのまごのうがまきるまをせいのまぐ井  
 胸がとまぐまきる紀のほのひひりう帰りませう  
 ようごごの井りる井まきまらとまきまらとまきまらと  
 まきまらの中けりけ後度とまひまて。今かまらひひひ  
 七まごごころかろね

及ぶず。お初も毛とくく氣どりて人お初らねんゆを  
 のみ。只管あんト居うける。かくなまありて。かこら人ども  
 於る書の両親のまゆもあらず。真まらうるおまが使室  
 めく。度入二まふかこみありんづひのあるまがた若るんハ  
 まごも体の残りめく。万ゆとお初よろしむせう。御るに  
 おまの此の如く。おひひのまに休次席と忍むまるるおま。  
 いは〜う只あるねまらるぬ。まよまこ葉木橋ある歌  
 妓於角ハ初に初明けまらに休次席のゆのまごひひをれて。

恋若竹 3編 208-703

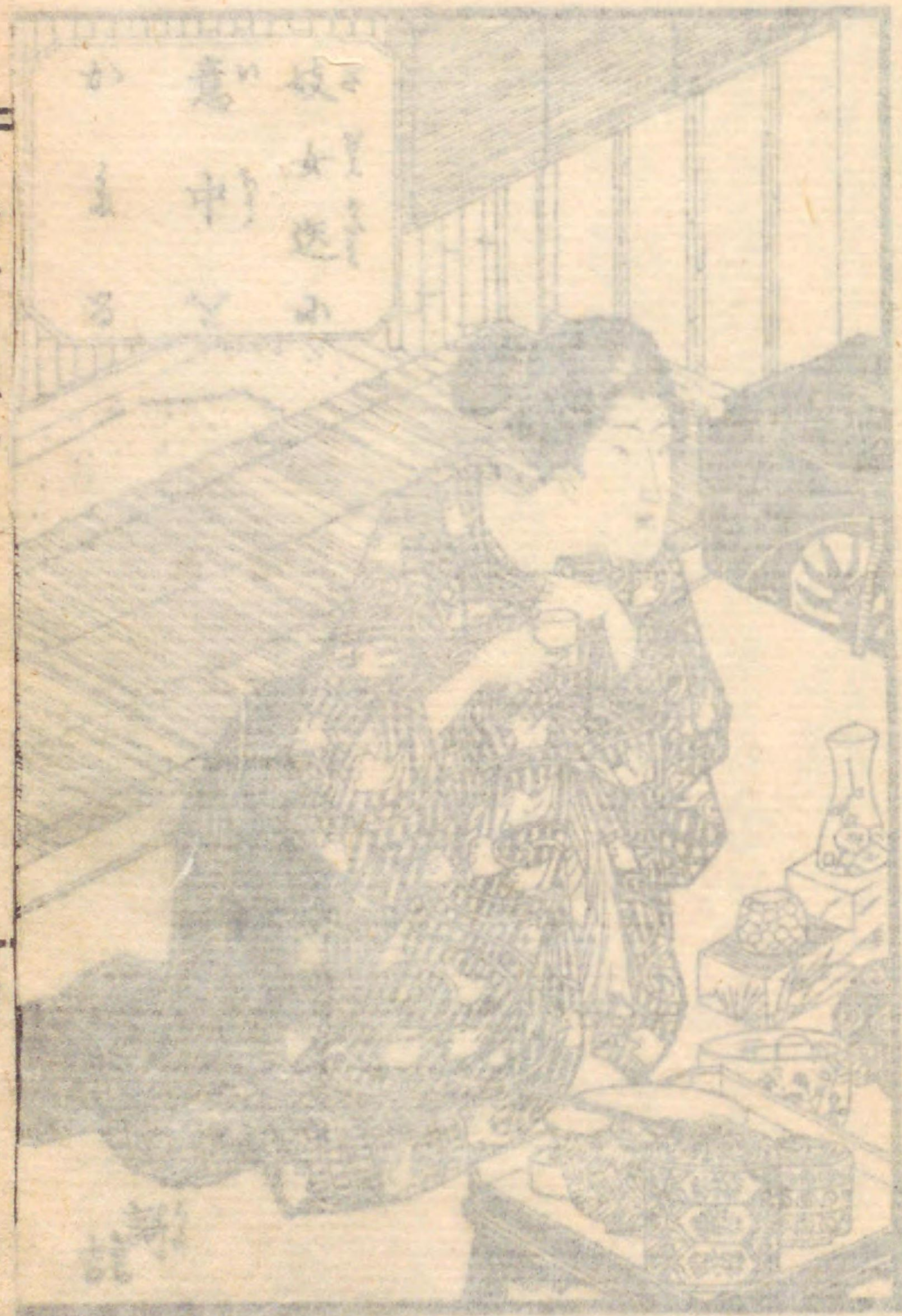
110



ちづと送る玉まの牛はらへさるうらに。嫌うとらめ  
 ありさまで。おきよくうてせしよるま。たぐく  
 報書もおくう。ちづとにきかひで。か角活計が  
 ぬれ合ふ。倍は思ふ痛む女あ。牛はらが更らるに  
 汲ず。一筋に驚りかまうて。今何ゆもろくよ。に  
 けぬわどらるま。勤める座をもそくゆ。最初ハ  
 一とひく二のる兒鯨舎るま。大評判の大流の妓  
 ありありも。潮よはたの悪くろ。葉屋向の

洋況大なること。まふ付てり。あ由跡。今の勤止の  
 変り。只誠切な案ある。妹分の哥書ゆ。入りき  
 ちづと。お寺系。ねえ。折角は。か  
 考へて法で。おと人。ユ。ま。でも。どうも。牛はら。さん。が。あ。り  
 る。客。の。ご。から。何。も。り。や。と。り。又。で。ら。る。く。て。ま。で。抄。の。ゆ  
 り。の。急。度。あ。ま。の。色。が。あ。り。て。惚。合。て。居。る。の。さ。う。ま  
 ちづと。弟。も。あ。る。ゆ。え。ん。づ。あ。り。ふ。ぢ。わ。つ。さ。成。て。来  
 へ。か。角。え。ん。日。ち。ち。や。実。の。は。り。で。い。う。ら。腹。と





後中

月



中

あ  
嘉  
久







恋若竹

中

か 意い 妓ぎ  
 ま 中ち 女に  
 る と 小

吉 詩



恋若竹

中



































二  
 若竹 3編 208-703

二

二  
 若竹 3編 208-703

二





那なのひまひまーあのひひがあつて。今いま辭ことばとうとううかからら上あるるにはりり乃  
処ところ。幸さいひひ今いま晚たんおお目めふふかかりりまましてして私わがのの仕し合あああるるのの迷ま  
然しか牛うしハハイイままのの何なにももででごござざりりままままらら。かかややううにに厚あいいおお懐なで  
危あやいい処ところとと助たすかりり。殊ことははおおれれああげげももままららのの包あいい大お切きる  
おおはは四よ恩おんががままどどののややるるゆゆととてて方かたがが一ひと由よし報はるるゆゆが  
ああつつまませせうう。そのその用ようととのの何なにももぞぞんんドドまませんせんがが牙くみみささへ  
かかららああつつるるゆゆがが。ししららややめめううおおんんひひととううでで。ささううととゆゆめめるるゆゆ  
ささややううるるゆゆがが。ままててももささららままままららへへ牛うしハハイイままののおおんんカカののああららがが

私わがもも男おとこ。かかううややままかかららああらら。林はやし「ささややううるるゆゆががヤヤまませせうう。薬くすり  
本もと橋はしのの義ぎ者ものよよおお角かくととややのの。四よ恩おんドドででごござざりりまませせううるる  
牛うし「ささややううるるゆゆがが。てて飛とりりまままま。林はやし「ああのの子こののゆゆででごござざりり  
まますすがが。ああつつるるゆゆがが。おおめめ人ひとさんさんががおお世せ話わとと  
るるままつつててももああつつるるゆゆがが。牛うし「いいままああつつるるゆゆがが。世せ話わととららうう。  
随したが分ぶん知ちるる居いままままままれれどど。逆さかしくく法は治ち合あいいままししててまま  
せんせんのの。林はやし「ままののゆゆがが。ああつつるるゆゆがが。けけせせららるるゆゆがが。ままんんでで  
ごござざりりまませせうう。一ひとつつりりままままららととややののままままららるる。牛うし「いいままああつつるるゆゆがが。

恋若竹 後中

十一











まのあ方が。くつりもあるなぐらあり。あんおまろ。うら  
くもものどくよな。ままが。是の不測の事縁で  
お目おからして。あつるお形ひとやまやう。どが。あんと  
あの子。けいおのやうおあまけず。に。身にま。てまね  
まどのやうに。鞠るやうおあま。えんるま。つて。く。む。う。ま。す  
ま。う。ま。へ。何。う。お。易。い。ゆ。ま。ア。笑。く。う。ち。ら。ぬ。か。ん  
お。ま。ま。せん。が。あ。ん。と。波。し。と。え。ま。せ。う。ま。の。何。う。り  
あ。う。う。そ。ん。と。ま。せ。と。や。う。あ。う。が。近。目。は。あ。の。子。よ。お。あ。ひ

下。ま。ん。て。そ。の。よ。く。え。の。や。う。に。鞠。め。え。い。の。せ。が。ま。の。と。に  
あ。う。の。の。お。産。と。や。の。の。こ。う。う。が。生。涯。の。お。形。ひ。と。あ。う  
め。て。ど。う。ぞ。出。エ。ま。と。形。ひ。ま。ま。流。の。ど。う。でも。お。角。か。己。あ。の  
や。う。お。産。出。て。か。せ。だ。え。い。の。せ。が。形。で。あ。る。と。お。ん。ご  
を。り。お。牛。の。や。り。う。お。形。み。と。の。何。う。と。ぞ。ん。と。あ。あ。ま  
る。れ。が。身。に。か。入。て。も。ま。ろ。と。ユ。ま。と。い。う。ま。せ。う。林。の。や。う  
あ。う。が。お。産。ま。ま。お。送。り。や。ま。の。で。ご。い。の。お。か。ち。と。扱。る。ん  
あ。う。も。ご。う。り。お。あ。あ。只。今。の。ゆ。え。お。形。ひ。ま。す。れ。が。ま。ろ

下後中

トハ



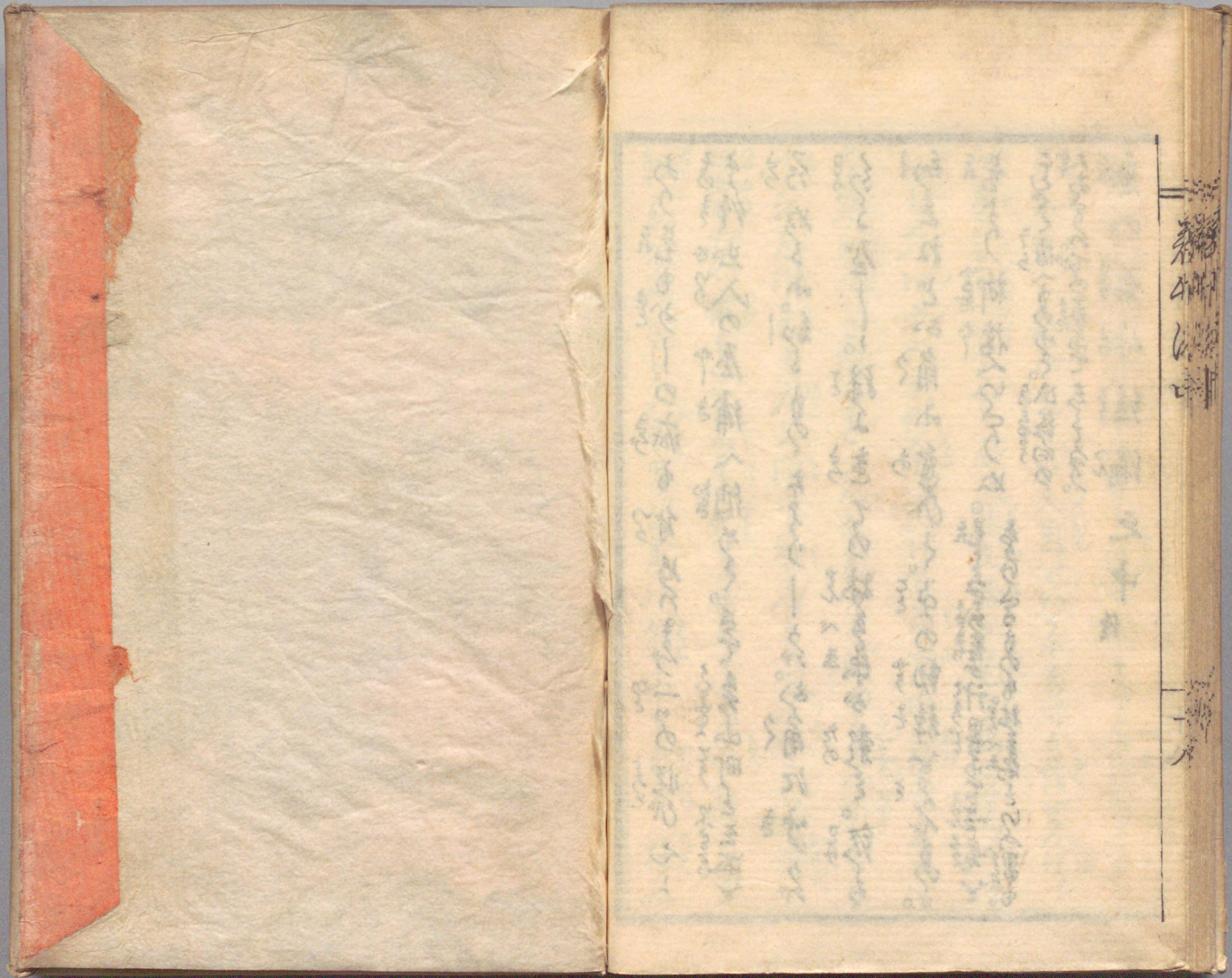
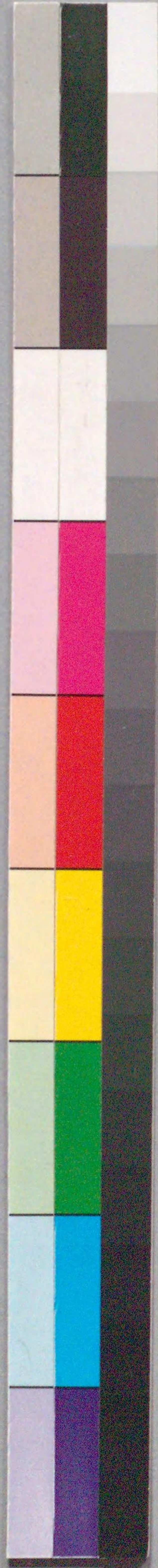














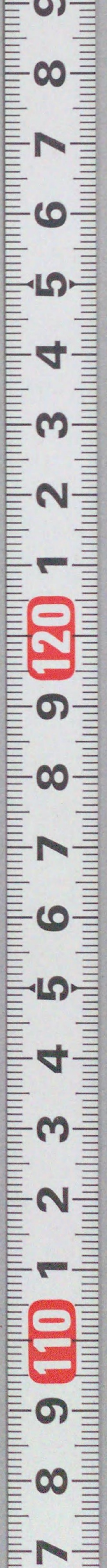
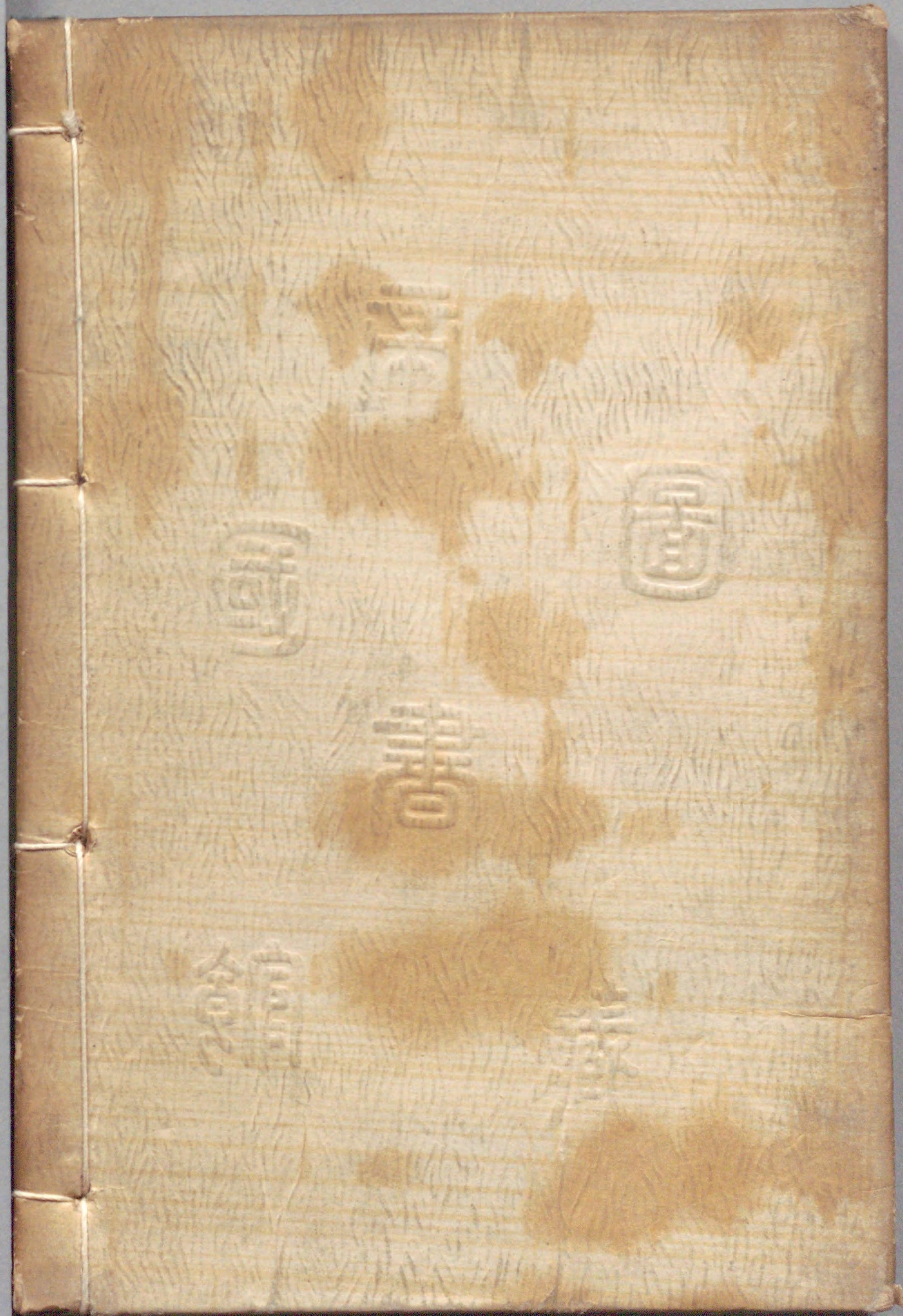
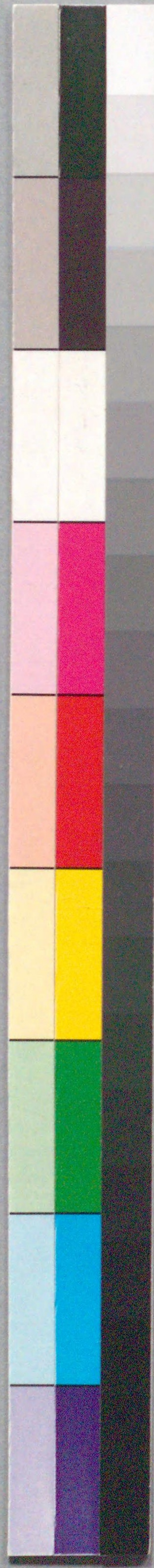
208  
9  
703

国立国会図書館 恋若竹 3編 208-703

ガラス使用







国立国会図書館 恋若竹 3編 208-703

ガラス使用